IFS-GCORE 海外派遣プログラム　体験記

氏名	本田　恵人
所属/学年	M1
指導教員	早川　晃弘
研究課題	SLIPI 法を用いた液体アンモニア噴霧構造の解明に関する共同研究
派遣期間	2023 年 9 月 27 日–2023 年 12 月 18 日
派遣機関	Université d'Orléans, PRISME
受入教員	Prof. Christine Rousselle

体験記：

令和 5 年 9 月 27 日–12 月 18 日の期間、フランスのオルレアンにある Université d'Orléans PRISME で国際インターンシップを行いました。

オルレアンは首都パリから電車で１時間のところにあり、ジャンヌ・ダルクゆかりの地として有名な街です。主な交通機関はトラムとバスで、治安も良好でした。何よりこの近隣はキッシュ・ロレーヌの本場であるため、あまりの美味しさに感動し、体重も順調に増えました。

私の訪問先である Christine 先生の研究室は主に内燃機関を扱っており、博士の学生に加えてポスドクや技術職員など大所帯でした。偶然同じタイミングでチリの学生も受け入れており、彼とはルームメイトとしてとても良い友達になりました。インターンシップの目的は、1-phase SLIPI で噴霧形状を観測するためのセットアップ、実演とマニュアル作成でした。今回扱った噴霧はごく短い時間のものであったため、機器の同期が大きな関門でした。しかし、技術職員や研究員の方々の力を借りてなんとか乗り越えました。

多くの課題を経験し、その度に共に手を動かし議論していたため、自然と人間関係は構築できました。特に昼食は皆と食べることが多く、研究に関係ない話もできるくらいフランクな方々でした。

一方で、研究以外の生活も充実したものでした。私は教授のご友人のお宅にホームステイしており、初対面であったにも関わらず温かく迎えて頂き、心細い思いをすることはありませんでした。私は週に１度、カレーや親子丼などの日本料理を作って家族に振る舞い、特に鶏の照り焼きを気に入ってもらえました。そして帰国する頃には、３か月程度というのが信じられないくらい、落ち着く場所になりました。

休日には以前東北大に留学していたリヨンの友人を訪ねたことや、イギリスやイタリアに足を伸ばしたこともありました。景色や文化も素晴らしかったですが、何より人の温かみに触れました。このような貴重な機会を与えてくださった指導教員である早川晃弘准教授をはじめ、派遣機関受入教員である Christine 教授、PRISME の皆様、IFS-GCORE の先生方および事務室の方々など、本インターンシッププログラムの関係者の方々に深く感謝いたします。

PRISME

研究室のメンバー

サン・クロワ大聖堂